

環境審議会大気環境部会（令和元年度第1回）委員意見整理表【主なもの】

※備考欄：①意見の趣旨を踏まえて対応済み、②今後反映予定、③今後検討

委員意見	対応案	備考
本文に該当する部分（適応策の取組事例等）についての記載がないので、記載すべき。	Vに追記。	①
基本方針の「2 県民・事業者・行政が危機感を持ち、ともに気候変動に取り組む」について、行政が具体的にどのようなことをするのか明記すべき	Ⅲに行政の取組内容等の詳細を追記。	①
山地崩壊等の影響が「農業、森林・林業、水産業」に分類されているが、「自然災害」に分類すべき。	「自然災害」に分類されている文献もあるが、本計画では国の「気候変動適応計画」と同様に、「農業、森林・林業、水産業」として整理。	③
適応策について、「既に取り組んでいるもの」と「これから取り組むもの」を分けて整理すべき。	Vで「現在の取組」と「将来の取組の方向性」に分けて適応策を整理	①
市町でも適応策を実施しているので、市町特有の適応策を聞き取り、より効果的な対策を検討すべき。	市町にヒアリングを行い、特徴的な取組をVIに追記。 施策の相乗効果等については今後検討予定。	①③
トラック業界では、荷物と車それぞれの情報交換システムが進んできており、そういったシステムをうまく取り込む適応策も必要。	庁内検討会等で今後検討予定。	③
防災減災対策ではハードとソフトの組み合わせが大切だが、ハードが軽すぎるのではないか。計画にはハードの規模等の記述にも重きを置くべき。	Vに河川改修や雨水管整備等のハード対策を整理。 規模等については庁内検討会等で今後検討予定。	①③
被災地への通訳ボランティアの派遣とあるが、泊まる場所がない等の一次被害の方が大きいので、それらの適応策を記載すべき。	VIに一時滞在施設や備蓄品の確保等を追記。	①
施策名だけではイメージの湧かない事業がある。表現を工夫すべき。	各適応策に施策名に加え、事業内容を追記。	①
県民にとって何が危機なのかを記載すべき。	県民に関わりが深い、気候の将来予測と気候変動影響の将来予測をⅡ、Ⅳに追記。	①
気候変動によるマイナスの影響が多いのはもちろんだが、プラスの影響もあるので、そこにも焦点を当てるべき。	Ⅳに気候変動のプラス面を追記し、Ⅵに事業者の適応ビジネスの取組例を追記。	①